

様式 1 1

「川づくり団体」部門

河川基金助成事業

「故郷の宝「球磨川」を誇りに思い、次の世代
へ引き継ぐ青少年育成活動」

助成番号： 2023-6111-001

次世代のためにがんばる会

代表者 松浦 ゆかり

| 助成番号 | 助成事業名 | 所属・助成事業者氏名 |
|--|----------------------------------|--------------|
| 2023-61111-001 | 故郷の宝「球磨川」を誇りに思い、次の世代へ引き継ぐ青少年育成活動 | 次世代のためにがんばる会 |
| 活動の目的 | | |
| <p>高校生をメンバーとする「エコユースやつしろ」を組織し、自然と人との共生を青少年が学び、自ら考え、その次の世代に伝えることができる青少年を地域に育てる。その結果、干潟を守る人材が増え、魅力的な干潟保全が進み、自主的な活動が展開されて、自然との共生を願う市民の意識が向上し、干潟保全に向けた一斉行動につながる。</p> | | |
| 事業テーマ | (申請書に記載した「申請テーマ」を記載してください。) | |
| <p>【実施内容】 <u>エコユースやつしろメンバーが専門家指導の体験型学習会に参加し、様々な企画の運営、他地域との交流、行政への提案を行った。</u></p> | | |
| <p>詳細① 田んぼのいきもの調査を行い、講演を聞き、生物多様性について学んだ。② 球磨川河川敷せせらぎ水路で魚を捕獲し、魚の消化管内のマイクロプラスチック調査をした。また干潟観察で生物多様性と生態系について学んだ。③ 八代海内海と外海のごみの現状について、長崎県でゴミ拾い活動を行っている高校生と意見交換会を重ね、世界へ啓発活動を行った。④ 水に関する講座：プロジェクト WET をアクティブラーニング方で主体的に学んだ。⑤ 水に関する食物から生活環境を学ぶ「食の安全」を受講した。⑥ 650 人の高校生が参加した八代海河川・浜辺の大そうじ大会の企画・運営をユースメンバーがおこなった。⑦ 水防災に関する災害地見学会に参加し、防災について真摯に考えた。⑧ 県外の高校生と交流して SDGs サミットを実施。ユース同士のコミュニケーションが取れ、次年度へ引き継ぐことになった。⑨ ⑧の交流や全国アマモサミットを機に、県外干潟（佐賀・荒尾）を訪 3 つの高校生が意見交換をして、地域の干潟保全を考えた。⑩ ⑨の交流として球磨川河口干潟、野鳥観察会を福岡新宮高校と行った。⑪ さらに⑧の交流つながりで福岡城東高校との交流干潟観察会を開催しワークショップで意見を交わした。⑫ 第 1 回いきもの調査をエコユースやつしろが体験し、次年度から開始する干潟保全プロジェクトの活動内容を検討した。⑬ その他、アマモサミットや市の SDGs の日で、エコユースやつしろの体験活動をパネルセッションで紹介した。⑭ エコユースやつしろと、当会が共同でまとめた活動報告小冊子を八代市長に提出し、<u>次年度から開催する干潟保全プロジェクトを提言したことで、市の協力を得ることになった。</u></p> | | |
| <p>【成果】</p> | | |
| <p>① <u>年間体験活動参加人数・説明会（40 人）・発足会と講演会（30 人）・田んぼの生きもの調査（17 人）・検査のための魚捕りとマイクロプラスチック検査と干潟観察会（19 人）・SDGs 未来キャンプ in 長崎（100 人）・プロジェクト WET 講座（24 人）・食の安全講演会（40 人）・第 19 回八代海河川・浜辺の大そうじ大会（662 人）・水防災見学会（20 人）・高校生 SDGs サミット in やつしろ（76 人）・干潟ユース交流（佐賀・荒尾：60 人）・八代市 SDGs の日パネルセッション（19 人）・新宮高校交流野鳥観察と WS（31 人）・第 1 回生き物調査（21 人）・城東高校交流干潟観察と WS（43 人）・アマモサミット参加・九州川の体験活動発表会登壇（2 人）・FM やつしろ生放送で活動紹介と保全啓発（25 人）・八代市長訪問・提言（8 人）・高校の授業やオンライン講演会 総合計 1,479 人</u></p> | | |
| <p>② <u>第 19 回八代海河川・浜辺の大そうじ大会参加者 662 人・ごみ回収 1 トン</u></p> | | |
| <p>③ <u>県外 3 校（長崎東・福岡 2 校）とのユース交流観察会と講演会ワークショップ 5 回</u></p> | | |
| <p>④ <u>2023 年度活動小冊子 1000 部をユースと共同作成し八代市長へ贈呈と干潟保全を提言</u></p> | | |
| <p>【今後の展望】</p> | | |
| <p><u>『青少年リーダーの育成プログラム』</u>として、今後も青少年を対象にリーダーシップや環境保全に関する教育プログラムを提供し、<u>将来の活動リーダーを育成</u>していく。</p> | | |
| <p><u>『持続可能な連携の構築』</u>として、地域や関連団体との連携を強化し、他団体、企業や行政との協力関係を築き、情報共有や資源の活用、連携した活動の実施により、持続可能な活動を行う。</p> | | |

助成事業の要旨

| 助成番号 | 助成事業名 | 所属・助成事業者氏名 |
|--|--|--------------|
| 2023-6111-001 | 故郷の宝「球磨川」を誇りに思い、次の世代へ引き継ぐ青少年育成活動 | 次世代のためにがんばる会 |
| 助成事業実施成果の自己評価 | <p>【計画の妥当性】</p> | |
| | <p>日本の環境保護活動で深刻な課題となっている<u>世代交代の解決</u>に向けて、地元高校生を対象に活動を展開してきた。自然と人との共生を地域の青少年が学び、自ら考えるように啓発し、次の世代に伝える取り組みは計画通り進んでいる。エコユースやつしろメンバーの活躍は各高校で高い評判となり、<u>地域の青少年による環境保護への関心が高まっている</u>。今年度高校を卒業し大学生になる1期生も「大学生会員」として参加し、指導者的立場で活動を継続している。さらに<u>エコユースやつしろメンバーが干潟再生プロジェクト指導者</u>となり、市民を巻き込んだ干潟観察や塩生植物を増加させる活動を行い、市民参加型保全活動に発展させていく。このようにエコユースやつしろメンバーが地域住民へ指導を行うことで、自ら学び、教えることの難しさを経験し、さらに成長し地域住民へ学んだことを伝えることができる人材（青少年）育成を実践していく。</p> | |
| | <p>【当初目標の達成度】</p> | |
| | <p>*エコユース八代メンバーが、専門家指導の体験型企画で地域の歴史や水についての歴史や文化、また防災などを体験的に学び、理解したことを自ら考え、次の世代に伝えることができるまでに成長した。この「エコユースやつしろ」メンバーは65名に達した。 *八代市長へごみ問題の現実問題と改善策を含めた干潟保全報告を作成（小冊子1,000部）し八代市長へ提言できた。<u>八代市長の快諾を得て新たに「ユースによる海洋保全プロジェクト」を立ち上げ実践を開始する</u>。そして、青少年の発表や啓発を受けて地域の大人がも意識が向上し、球磨川への愛護、河川保護の意識が高まった。</p> | |
| <p>【助成事業の効果】</p> | | |
| <p>今回の事業で外部との連携が拡大した。これまでは単一地域での活動だったが、エコユースやつしろを通じて他県の高校との交流が始まり、それが高校生SDGsサミットの組織化につながった。これにより、<u>地域間や県境を越えた連携が生まれ、次年度から九州全体の高校生交流サミットを環境省、農林水産省、国土交通省の後援で開催予定</u>となった。現在、全行政や専門家、市民と協働する形で、干潟を守る「海洋保全プロジェクト」を計画中である。このプロジェクトにより、魅力的な干潟保全が進み、地域の自主的な活動が進展し、自然との共生を願う市民の意識がより一層向上することが期待できる。</p> | | |
| <p>【河川管理者等との連携状況】</p> | | |
| <p><u>水防災歴史散策会では、八代河川国道事務所のガイド付き</u>で、令和2年豪雨災害地を初めて訪ねたユース達は、言葉を失うほど水害の恐怖を知り、防災対応に取り組むことを宣言した。また高校生SDGsサミット in やつしろ開催では、九州地方整備局担当者から講演をもらい、八代河川事務所の方々も多数の班でユースに指導していただいた。そして八代河川事務所長に最後の講評を頂き、目標が達成できる会となった。このような共同体制が取れたことで、次年度から開始する干潟保全プロジェクトの指導教室は、<u>八代河川事務所がエコトーンとして再生をしている場所を共同で調査や保全活動を進めていく</u>。</p> | | |
| <p>【キーワード】</p> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・専門家による多種多様な講演会や体験型学習会 ・地域への情報発信とコミュニケーション能力発揮 ・各地での発表で他県のユースとの交流学习開始 ・八代市長への球磨川河口再生企画提言 ・国土交通省八代河川事務所の芳原再生地で共同調査と保全活動を開始する。 | | |

【活動の目的】

高校生で組織する「エコユースやつしろ」は、自然と人との共生を青少年が学び、自ら考え、その次の世代に伝えることができる青少年が地域に多数存在する。干潟を守る人材が増え、魅力的な干潟保全が進み、自主的な活動が展開されて、自然との共生を願う市民の意識が向上し、干潟保全に向けた一斉行動につながることを目的とする。

【活動概要】

「エコユースやつしろ」体験活動企画が3年目となり、青少年が自ら企画運営をしながら更に学び、そのまた次の世代へ指導することで知識を深めて行く。また日本各地での発表の機会を待ち、市民啓発として、パネルセッションを公的機関で行い、さらに「エコユースやつしろ」と共同で小冊子を作成し、市長へ報告と干潟保全へ向けた取り組みを提言する。このような高校生が市民啓発を行うことで、不法投棄問題や干潟保全への市民の関心を高め、八代海・河川の保全に繋がるとともに、これらの機会を通し、次の世代へ多面的な環境保全活動を継承し、継続的に次世代に繋げていく基盤活動を作るものである。

【活動内容】

エコユースやつしろメンバーが専門家指導の体験型学習会（低生生物・野鳥・塩生植物観察会・水質調査・干潟・水の歴史散策学習会・水防災WS・防災キャンプ）に参加。
詳細①田んぼのいきもの調査と講演を聞き、生物多様性を考える。②球磨川河川敷せせらぎ水路の魚捕獲体験、腸に存在するマイクロプラスチック調査、干潟観察で生態系を考えた。③八代海内海と外海のごみの現状を県外（長崎）でゴミ拾い後、県外高校生と意見交換会を重ね、世界へ啓発。④水に関する講座：プロジェクトWETをアクティブラーニング方で主体的に学んだ。⑤水に関する食物から生活環境を学ぶ「食の安全」を受講。⑥八代海河川・浜辺の大そうじ大会の企画・運営を担当し650人の高校生を指示した。⑦水防災を基本とした災害地見学会に参加し、防災について真摯に考えた。⑧県外の高校生と交流してSDGsサミットを実施。ユース同士のコミュニケーションが取れ、次年度へ引き継ぐことになった。⑨⑧の交流やアマモサミットを機に、県外干潟（佐賀・荒尾）を訪3つの高校生が意見交換をして、地域の干潟保全を考えた。⑩⑨の交流として球磨川河口干潟、野鳥観察会を福岡新宮高校と学んだ。⑪さらに⑧の交流つながりで福岡城東高校との交流干潟観察会を開催しワークショップで意見を交わした。⑫第1回いきもの調査をエコユースやつしろが体験し、次年度から開始する干潟保全プロジェクトの指導教室で学んだ。⑬その他、アマモサミットや市のSDGsの日で、エコユースやつしろの体験活動をパネルセッションで紹介した。⑭エコユースやつしろと共同でまとめた活動報告小冊子を八代市長へ贈呈し、次年度から開催する干潟保全プロジェクトを提言し、市の協力を得ることになった。

【実績】

年間体験活動参加人数・説明会（40人）・発足会と講演会（30人）・田んぼの生きもの調査（17人）・検査のための魚捕りとマイクロプラスチック検査と干潟観察会（19人）・SDGs未来キャンプ in 長崎（100人）・プロジェクトWET講座（24人）・食の安全講演会（40人）・第19回八代海河川・浜辺の大そうじ大会（662人）・水防災見学会（20人）・高校生SDGsサミット in やつしろ（76人）・干潟ユース交流（佐賀・荒尾：60人）・八代市SDGsの日パネルセッション（19人）・新宮高校交流野鳥観察とWS（31人）・第1回生き物調査（21人）・城東高校交流干潟観察とWS（43人）・アマモサミット参加・九州川の体験活動発表会登壇（2人）・FM やつしろ生放送で活動紹介と保全啓発（25人）・八代市長訪問・提言（8人）・高校での授業やオンライン講演会参加 **総合計 1,479人**

【具体的な成果】

- ・年間20企画の体験活動に参加・普及啓発 年間参加者数：1,479人
- ・第19回八代海河川・浜辺の大そうじ大会参加者662人・ゴミ回収1トン
- ・県外3校（長崎東・福岡城東・福岡新宮）との交流観察会と講演会ワークショップ5回
- ・EYY小冊子1000部共同作成し、八代市長へ贈呈と干潟保全を提言

【今後の展望】

今年度高校を卒業し大学生になる1期生も「大学生会員」として参加させ、指導者的立場で続けている。今後も様々な分野の専門家を招聘し、沢山の知識を学び高めるには学知と経験知が不可欠であり、環境学習という具体的なテーマのもとに、学知と経験知の融合的増強を目指すというこの運動を企図し推進していく。さらにエコユースやつしろメンバーが干潟再生プロジェクト指導者となり、市民を巻き込んだ干潟観察や塩生植物を増加させる活動を、市民参加型保全活動に発展させていく。このようにエコユースやつしろメンバーが地域住民へ指導を行うことで、自ら学び、教えることの難しさを経験し、さらに成長し地域住民へ学んだことを伝えることができる人材（青少年）育成を実践していく。

【連携組織】

- 1) 青少年育成のための授業及び指導：・大学教授（東京大学・九州大学・熊本大学・長崎大学・北九州市立大・崇城大学、様々な省庁など）
- 2) 青少年育成授業の受入れとサポート：・八代市内の高校（八代高校・八代工業高校（定時・夜学）・八代農業高校・八代東高校・八代清流高校・秀岳館高校・八代白百合学園高校の7校）・市内の小学校児童
- 3) 青少年育成の企画・運営サポート：・環境省九州地方環境事務所・九州農政局熊本県拠点・国土交通省九州整備局・八代河川国道事務所・熊本県環境立県推進課・八代市環境課・農林水産課など
- 4) 連携団体：ラムサールネットワーク日本・八代野鳥愛好会・八代植物友の会など

【キーワード】

- ・ 専門家による多種多様な講演会や体験型学習会
- ・ 地域への情報発信とコミュニケーション能力
- ・ 各地での発表で他県のユースとの交流学习開始
- ・ 八代市長への球磨川河口再生企画提言



エコユースやつしろメンバー

講師・指導者・参加者表

敬称略

| | 所 属 | 役 職 | 氏 名 | 年 齢 | |
|--------|--------------------------|----------|-----------------|--------|--------|
| 1 | 東京大学 | 教授 | 知花 武佳 | 40代 | |
| 2 | 駒澤大学・武蔵大学名誉教授 | 名誉教授 | 白水 繁彦 | 70代 | |
| 3 | 社団法人 河川情報福岡センター | センター長 | 川口 芳人 | 60代 | |
| 4 | 崇城大学教授 | 学識会員 | 宮坂 均 | 60代 | |
| 5 | 熊本大学教授 | 学識会員 | 宮瀬 美津子 | 60代 | |
| 6 | 九州市立大学院 | 教授 | 森田 洋 | 50代 | |
| 7 | 長崎大学院 | 工学博士 | 出水 享 | 50代 | |
| 8 | プロジェクト WET ジャパン事務局 | 主任研究員 | 菅原 一成 | 40代 | |
| 9 | プロジェクト WET | ファシリテーター | 倉嶋 真司ほか1名 | 50代 | |
| 10 | 九州大学院生態工学部 | 准教授 | 清野聡子ほか7名 | 50代 | |
| 11 | 環境省九州地方環境事務所 | 所長 | 築島 明 | 50代 | |
| 12 | 環境省九州地方環境事務所 | 専門官 | 大嶋 恭子ほか2名 | 30代 | |
| 13 | 九州農政局熊本県拠点 | 推進官 | 橋本 英樹ほか4名 | 50代 | |
| 14 | 国土交通省八代河川国道事務所 | 副長 | 宗塚万ほか20名 | 50代 | |
| 15 | 国土交通省九州地方整備局 | 建設専門官 | 田脇 康信 | 40代 | |
| 16 | 国土交通省八代河川国道事務所 | 課長 | 弓削 里恵子 | 50代 | |
| 17 | ひのくにベントス研究所 | 所長 | 森 啓介 | 60代 | |
| 18 | ウエットランドフォーラム | 理事 | 松本 悟 | 50代 | |
| 19 | 八代野鳥愛好会 | 会長 | 高野 茂樹ほか2名 | 70代 | |
| 20 | NPO 法人海辺つくり研究会 | 理事 | 増田 龍哉 | 50代 | |
| 21 | Youth Engaged in Wetland | 代表 | ディランほか5名 | 40代 | |
| 22 | 八代市環境課 | 課長 | 中川 順一 | 50代 | |
| 23 | 八代市環境課 | 係長 | 上村 優子 | 40代 | |
| 24 | ラムサールネットワーク | 事務局長 | 後藤 奈緒美 | 50代 | |
| 25 | シギチドリネットワーク | 代表 | 柏木 実 | 70代 | |
| 26 | 福岡工業大学附属城東高校 | 教諭 | 副島英子ほか5名 | 40代 | |
| 27 | 熊本県立八代高校 | 教諭 | 遠山 規子 | 30代 | |
| 28 | 熊本県立八代高校 | 教諭 | 松元 友美 | 30代 | |
| 29 | 福岡県立新宮高校 | 教諭 | 川村裕美 | 50代 | |
| 30 | 長崎県立長崎東高校 | 教諭 | 檜本 英人 | 50代 | |
| 31 | 八代市内 6校ノ高校生 | 生徒 | 約 800人 | 10代 | |
| 32 | 長崎、福岡 2校 の高校生と中学生 | 生徒 | 約 100人 | 10代 | |
| | その他 様々な分野の方々 | | | | |
| 延べ参加人数 | | 1,479名 | スタッフ 8名×24件=90名 | ユース・一般 | 1,389名 |

活動詳細

【1】エコユースやつしろ 説明会

期 日：4月15日（土）14：00～16：00

会 場：桜十字ホール八代 研修室

参加者：エコユースやつしろ1，2期生12人、入会候補26人スタッフ2人計40人

内 容：エコユースやつしろ2期生が企画、運営を初体験で行い、会の目的及び年間活動の紹介を2期生が説明。昨年度体験活動を盛り込んだ活動紹介の話題や、自分なりの興味を持った活動を紹介してくれた。結果、エコユース八代3期生、20人が登録した。また顧問の川口氏に「八代地域の魅力」講演をした。

感 想：メンバー全員が活躍できる場所を作り、エコユースの魅力を最大限に引き出すプレゼンテーションを作るよう心がけました。わかりやすいスライド作りや伝わりやすい話し方など、魅力的なパフォーマンスを目指しました。小規模ではあるものの、自分たちの手で企画・運営を経験できたことは、貴重な経験だったと思います。これは、エコユースやつしろというコミュニティーに属していなければ経験できなかったことであり、学校で勉強するだけでは身につけられない力を得られたと感じています。



市内の高校生が参加



エコユース八代1期生が運営(受付・司会など)



【2】エコユースやつしろ 2023年度発足会

期 日：4月22日（土）14：00～16：00

会 場：桜十字ホール八代 研修室

参加者：エコユースやつしろ1，2期生7人 新規メンバー20人スタッフ3人計30人

内 容：エコユースやつしろ体験発表、東京大学の知花教授の講演会を実施した。

感 想：2期生：前の年の説明会は自分が聞く側で、先輩方が話されているのをすごいなと思いながら聞いていたので、エコユースで一年間、多くの人の前で話す機会をたくさんいただき、だんだん自信を持って話せるようになったので、エコユースやつしろで活動していて良かったと思いました。

新規生：これからたくさんの活動に積極的に参加して、学校では学べないことを知れるよい機会なれば思う。また、他校の人との交流関係を築けるようにし、八代の魅力を知ると同時に、周りに伝えていきたい。



1期生による司会進行



東京大学知花教授の講演



真剣に聞き入る新規メンバー

【3】田んぼ生きもの調査

期 日：5月20日（土）13：00～14：30

場 所：無農薬農家：杉山宅田んぼ（八代市古閑中町）

参加者：エコユース八代2期生8人、スタッフ7人、講師2人
合計17人

内 容：八代市古閑中町の杉山さん宅の無農薬田んぼを借りて、八代野鳥愛好会会長高野茂樹先生と丁畑佐代先生を講師として、野鳥についての講演と生きものを採取し調べ生きもの生態系について学んだ。農家の野鳥被害を聞いてからその苦勞に対し、高野先生から野鳥被害への対策をされている講演を聞いた。

感 想：

「今回のお話で私が最も心に残ったことは、高野先生のお話で、野鳥による被害にばかり焦点を当てるのではなく、人間と鳥の共生を目指すことが重要だということです。野鳥は田んぼの虫を除去するなど人間にとって非常に有益な存在でもあります。そのため、鳥を排除するのではなく共生することこそが私たちが目指すべき世界なのだと学びました。そのような世界を実現するために、野鳥の飛来情報を調査し農家の皆さんに防鳥ネットを張るなどの対策を伝えている取り組みをされていることにも感銘を受けました。」多様な繋がる世界が共存して行けるような活動でありたいと感じた。



いくさの田んぼを散策



探したいきもの名前を調べた



参加者集合写真

【4】マイクロプラスチック検査用魚捕獲体験・干潟観察会とマイクロプラスチック検査

期 日：5月20日（土）13:00～16:30

場 所：八代市古麓町界隈の水路と球磨川河川敷せせらぎ水路

参加者：エコユースやつしろ2期生7人・スタッフ7人・地元住民5人 計19人

内 容：マイクロプラスチック検査の準備段階で、魚を水酸化ナトリウム水溶液に2週間漬けておくために、地元の河川2カ所で魚を捕獲した。水無川ではなかなか捕れず、用排水路に移動してギンフナ・オイカワ・カワムツ・ドンコ他、スッポンも捕獲して解剖をした。



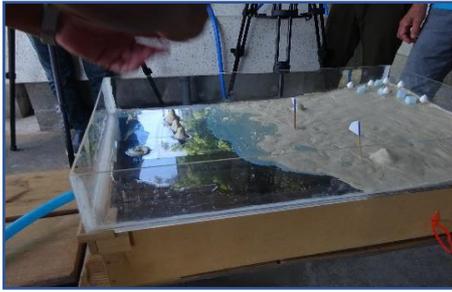
2週間苛性ソーダに漬ける



マイクロプラスチック検査実験のための魚捕獲



マイクロスコープ顕微鏡でプラスチック検査



八代平野の干拓地模型を使い説明



八代海干潟の生き物調査

【5】SDGs未来キャンプin長崎

期日・場所 2023年7月15日(土)～16日(日)

1日目:7月15日(土)長崎県庁1F協働エリア

2日目:7月16日(日)野々串港(長崎市高浜町)

参加者1日目:約60名、2日目:40名(小学生、中学生、高校生、大学生、高校・大学教育、自治体職員、国職員)

2日間 合計100人

実施内容

①1日目:SDGs未来会議:場所 長崎県庁1F協働エリア

第1部 活動紹介

内容:各地域で行っている環境活動事例の発表

第2部 講話

内容:環境問題、問題を解決するアクションを行うためのヒントやその事例の紹介

- ・環境省九州地方環境事務所 大嶋 恭子氏
- ・長崎県県民生活環境部 松尾 剛氏・長崎市環境部 松山 寿雄氏
- ・コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 遠藤 氏

第3部 ワークショップ

内容:ワールドカフェ方式でワークショップを実施。1グループ6名に分かれて、具体的な環境問題に対して解決方法や解決するためのアクションについて意見を出し合い、発表を行った。

②2日目:7月16日(日)SDGsフィールド体験

場所:野々串港 ※集合:9:45

- ・軍艦島が見える海岸の清掃・軍艦島クルージング
- ・軍艦島資料館、長崎市恐竜博物館
- ・軍艦島が見える海岸の生物観察保下海岸



講演会と各学校の活動紹介



ユース交流ワークショップ



長崎と八代の高校生



長崎の海岸でゴミ拾い



【6】プロジェクトWET 講座

期 日： 8月8日（土）9:00～15:30
場 所：桜十字ホール八代会議室
参加者：高校生14人・教諭2人・大人2人
・講師4人・スタッフ2人 合計24人
講 師：Project WET Japan 菅原 一成氏
ファシリテーター 倉嶋真司氏 吉竹氏
松浦ゆかり

内 容：アイスブレイク：青い地球・ゴールイメージ
使用アクティビティ 1. 大海の一滴 2. 塵も積もれば
3. エネルギッシュな水
ピアティーチング 1 私の水アドレス、行動を起こせ！
ピアティーチング 2 バイキンバスターズ
ピアティーチング 3 川を渡る
ピアティーチング 4 侵入者
修了人数 16人 エducーターサポーター2人

日頃より地域の教育関係と共に活動をしていることで、担当教諭やエコユース八代メンバーにメールだけで参加者が募れた。演習者の大半が高校生であるため、理解しやすい副教材（パワーポイント）の準備をしたり、班を分ける際にも日ごろからの友人を会えて外し、各班の仲間づくりを目指した。エドゥケーターになり、次のステップアップを目指したい。という声が多く出ていたので、将来は八代でもファシリテーター講座を開く予定。
感想：中身の濃い講習会で長時間の講習会があつという間に感じた。ただの講義型ではないところが自分自身の身になると感じた。



松浦による「水」の講話



エドゥケーター取得者 20人

【7】食の安全講演会

期 日：8月11日（金・祝）13:00～15:30
場 所：桜十字ホールやつしろ
講 師：森田洋教授（北九州市立大学院）
参加者：エコユースやつしろ、一般市民 スタッフ 合計40人
内 容：食品添加物は現代の食品産業において広く使用されていて、その安全性に関しては常に注目されている。講演会で、食品添加物の安全性について専門的な見解を提供し、講演を通じて、食品添加物の利用と安全性についての理解を深めた。

感 想：食品添加物とはなにか、気をつけるべきことはなにかなどについて教えていただき、大人よりも乳幼児などの小さい子供が気をつけないといけないことは、まず大人が学ばなければならない大切な講演会だった。



【8】第19回八代海河川・浜辺の大そうじ大会(現地下見)

下見：5月28日9:30～ 9人
 期日：8月20日(日)13:00集合15:00～17:00
 参加者：エコユース八代24人・市内高校生
 約650人・企業一般参加30人・
 スタッフ8人 合計約662人

場所：八代市北平和町：球磨川河口浜辺

内容：八代市内の高校や一般に呼びかけて開催。
 毎年恒例となり市内の6つの高校から600人の参加希望者と、企業3社、一般親子、スタッフ総合計約660人のごみ拾い大会となった。
 今年度はEYYメンバーが役割分担で参加者の誘導や活動手順説明、記録班、インタビュー係を行い、大人数を動かすことの難しさに驚いていた。

役割：受付・司会・道案内・記録係(動画・インタビュー・デジカメ)・ごみ分別など



EYYの感想

- ・人間の物を海に捨てるという、身勝手な行動で魚などに悪い影響を与えているということを改めて感じた。
- ・人の多さとごみの多さに驚き、人を動かすことの難しさに苦労した。



エコユースやつしるメンバー

ごみ分別



ガタ泥にはまってまでごみを拾う



市内の高校生有志約650人が参加

【9】水防災歴史見学会

期日：9月24日9:00～16:00
 場所：八代市内球磨川流域歴史カ所
 参加者：エコユース八14人・講師2人・
 スタッフ3人・一般2人 合計20人
 講師：向田清峻課長・磯田節子先生ほか
 内容：球磨川流域の堤防や日本遺産に登録された歴史的構造物を熊大の2人の先生の解説で散策できた。八代のことを知っているようで、専門家からの解説に「初めて知ることばかり」とメンバーには驚きがあった。



EYYの感想から

- ・球磨川の堤防にいろんな工夫が有って、昔の人々の知恵や工夫を知ることができたので、それらを大切にしていきたい。
- ・球磨川は八代にとって重要な場所。水を守り、生き物の多様性も守り、きれいな球磨川を後世に残していきたい。
- ・今日の水の散策学習を通して八代の発展の陰に水が有った事に、また石工達の血の滲むような苦労が有ったのだと感じました。

- ・堤防や橋など詳しく見たことが無かったので、新たな発見や知識などが増え、より八代の事を知れて良かった。



球磨川の橋について解説



再興した人吉 HASENBA で記念撮影

【10】高校生 SDGs サミット in やつしろ

期 日：11月5日 9:30～13:45

場 所：八代市役所多目的ホール

参加者：

- ①エコユースやつしろ (28人)
- ②長崎の中学生・福岡工業大学付属城東高校 (8人)
- ③講師と助言者 (環境省・農林水産省・国土交通省・高校教諭・市職員九州大学スタッフ・長崎シー・クリーン・次世代のためにがんばる会・高校生36人・行政・教諭・スタッフ合計76人)

実施内容

環境省九州地方環境事務所の所長、築島明氏の開会挨拶で開始。

1部 中学生・高校生発表ファシリテーター：出水享氏・長崎チームの発表

team長崎シー・クリーンの活動紹介、出水琉さんが世界遺産軍艦島が映える海を守る美化活動や環境教育などを発表した。

環境省九州地方環境事務所長のご挨拶→



講師の方々



長崎シー・クリーンから
出水琉君の発表

- ・エコユースやつしろの発表
エコユースやつしろの活動紹介として高野真央さん、瀬高望さんが、浜辺の大そうじ大会や八代市役所でのポスタープレゼンなどを発表した。次に灰本百花さん、平田花澄さん、岡村有莉さんが2023年7月に長崎で参加したSDGs未来キャンプでの参加報告として、環境ワークショップ、環境フィールドワークなどについて発表した。



2部 話題提供

第3部で行うワークショップの課題として環境省、農林水産省、国土交通省からの話題提供と八代市役所から、八代市内における気候変動の影響についての講和。

【話題提供者と課題】

- ・環境省 (九州地方環境事務所) 大嶋 恭子氏
課題：環境活動を同じ高校生にどのように伝えたらよいのかその方法や伝え方

課題：私たちの地域にどのような自然環境や生物が存在してほしいか？また、それを実現するために何をしたいのか？

- 九州農政局熊本県拠点 総括農政推進官 橋本 英樹氏
課題：世界情勢と国内の農作物生産の現状を踏まえて自分たちに出来ることは？
- 九州地方整備局企画部企画課建設専門官 田脇 康信氏
課題：持続可能な地域を支える「土木工事」や「建設業」。時代に合わせてその役割を正しく伝え、イメージを変えていく方法
- 八代市役所 環境課 中川 順一氏
気候変動による八代市の特産である青のりの養殖の危機とその現状について



環境省：大嶋恭子氏の講演



農政局：橋本英樹氏の講演



国土交通省：田脇康信氏の講演



八代市環境課：中川順一氏の講演

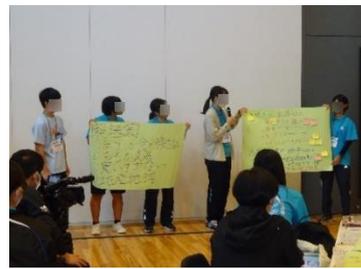
3部 高校生グループワーク

ファシリテーター：榎本英人氏→

第2部での課題に対して、それぞれグループ（1グループ約8人）を構成し課題解決にむけたワークショップを行った。また、助言者として話題提供者、行政関係者、専門家、先生なども参加して生徒にアドバイスをもらった。



参加した高校生と専門家が6つの班で温暖化防止対策などを意見交換しまとめるワークショップでは、立ちあがっての意見交換で盛り上がった。



特別発表

特別発表として、福岡工業大学附属城東高校の活動紹介、河川財団の紹介、次世代のためにがんばる会とteam長崎シー・クリーンの連携協定の紹介があった。

長崎シー・クリーン代表 出水 と
次世代のためにがんばる会代表 松浦→



講評 国土交通省八代河川国道事務所 宗琢万所長
高校生SDG s 未来サミットの全体の感想として、来賓の国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所所長の宗琢万氏に各班の講評と熊本大学教育学部教授&次世代のためにがんばる会学識会員の宮瀬美津子先生に最後のご挨拶を頂いた。



国土交通省：宗琢万氏の講評



熊本大学・会員：宮瀬美津子氏のご挨拶

高校生の発表と新プロジェクト予告発表

- ・ 高校生からの発表
環境活動に参加して起きた意識と行動の変化を伝え、これからの抱負も述べた。
- ・ 漫画家・イラストレーターの信吉氏発表
2024年度からスタートする新プロジェクト「SDG s 教材製作プロジェクト」の紹介を行いエコユースやつしろからの発案・説明後、プロである新吉さんから助言を頂いた。



★参加した高校生の反応と今後の期待

本サミットは、事前に行った高校生へのアンケートをもとに「地球温暖化・脱炭素」をテーマとして関係省庁から話題提供を頂きましたが、それに対し高校生が問題を提起する形で、高校生らしい楽しくわかりやすいアイデアに基づいた対策を発表してくれました。地球温暖化や脱炭素といった、複雑な問題や取組についても、これからの社会を担っていく中高校生のリーダーシップやアイデアに大いに期待できると感じられるサミットになりました。

とりわけ今回は、八代と長崎の中高生に加え、福岡の高校生も参加いただく結果となり、県を超えた同世代の中高生同士の交流も充実したものとなりました。

今度もこのような企画を九州地域内で進めていきたいと思えます。



高校生の真剣な表情の会場



大人も興奮し全員立ち上がってのワークショップ





長崎・福岡・熊本(八代)の高校生たちとの交流記念写真

EYY メンバーの感想から

- ・ 普段、学校では聞けないような専門的で時代のニーズに合った話を聞くことができ、様々な視点から「環境」にアプローチしていたため、視野が広がった。自分の住んでいる地域なのに知らなかったことが多く、もっと学ぼうという気持ちになりました。
- ・ 環境と経済を共立させる上で重要な事は、個人・行政・企業が協力して解決しようとする思いが大事と知り、その通りだなと思った。
- ・ 色々な分野の講座を受け、ディスカッションをしたことを通して、「環境」のことについて多方面から考えることができた。八代の大切で素晴らしい水環境を守り、共生していくために、今後もこのような活動を通して沢山学び、活動を頑張ろうと思った。
- ・ 司会や進行も初めてやったが、とても勉強になった。

【11】干潟を活かす地域の未来をユース交流で考える

期 日：12月16日(土) 7:20~18:10

場所：午前 荒尾市役所・荒尾干潟水鳥湿地センター(熊本県)

午後 東よか干潟ビジターセンター(佐賀県)

参加者：EYYメンバー12人・スタッフ4人、
九大と新宮高校と城東高校44人 計60人

内 容：2県干潟を3高校が交流見学会と意見交換を行った。
各高校と共に刺激を得ていたようだ。



3高校総勢80人の参加



班に分かれて管内見学



佐賀よかよか干潟を見学

EYYの感想

- ・普段何気なく眺めている干潟がこれほど多くの生物達にとって憩いの場であると同時に、人間にとっても生活の場であることを知り、次世代に繋げることの重要性を理解しました。とても興味深い体験でした。

【12】SDGsの日：パネルセッション・啓発活動と活動紹介発表

期日：2024年2月12日（月：祝）10:00～17:00

会場：桜十字ホールやつしろ 大ホール（発表）・多目的ホール（展示ブース）

指導者：出水 享 氏

参加メンバー 大ホール：メンバー2人（高校での登壇者メンバー5人） 合計7人

展示ブース：メンバー（7人・スタッフ4人）・講師1人 合計19人

①大ホール SDGs に資する取組を実践している市内小・中学生や高校生、市内企業（八代市 SDGs アクション宣言者等）の取組を発信するイベント（事例発表、パネルディスカッション等）の中で八代市内5つの高校と高専、支援学校、他の活動紹介の場で、「エコユースやつしろ」2人がその中で発表。（5つの高校代表の中にエコユースメンバー5人登壇）

★ エコユースやつしろの活動紹介として春野薫子さん、上淵優さんが、浜辺の大そうじ大会や不法投棄視察会、マイクロプラスチック検査、県外の高校生交流企画の「SDGs サミットinやつしろ」などについて発表した。

②展示ブース（多目的ホール）

展示ブースでは、次世代のためにがんばろ会+エコユースやつしろのブースを設け、20枚のA1サイズのパネルで活動内容を展示しました。エコユースやつしろメンバーが活動を説明しました。展示ブースの中央では、長崎大学の出水博士に指導を受け、次年度から計画しているSDGs教材の企画作戦のためにカードゲームの試作も行いました。この活動は地域の啓発と将来の環境リーダーの育成に貢献し、社会全体に環境保全の重要性を伝え、持続可能な未来を築く一歩となると期待します。



前日遅くまで展示をするメンバー



年間の活動を20枚のパネルにして展示

下記のように日本各地の漂着したごみを展示し、そのラベルの文字でその国が分かる



WET講座講師から頂いた北海道の漂着ごみ
*ロシアや北朝鮮のごみ



SDGsサミットin長崎のごみ拾いをした際のごみ
*韓国や中国のごみ



八代海河口干潟のごみは
たくさんのごみ
*内海の日本のごみ



様々なカードゲームを試してみた



出水博士指導の教材作り会議



八代市長と今後の計画を相談

★エコユース八代メンバーの感想

大ホールでの登壇者の感想

この活動に参加したことで、SDGs への理解が以前よりも深まりました。私はステージに登壇し、エコユースとしての活動発表を行いました。発表準備の際に、各活動を振り返ったことで、自分が学んだことを再確認する機会になりました。本番は緊張しましたが、無事に発表を終えることができ良かったです。また、他団体の活動発表も聞けたので、勉強になりました。この体験を通して、SDGs の理念が多くの市民の方々に広まったら良いなと思いました。

展示ブースメンバーの感想

今回の取り組みで情報発信の大切さを感じました。私たちは普段環境について活動をしているので知っていますが、他の方々は知らないことの方が多いと実感しました。私たちの取り組みを今回のイベントを通して周りの方々に伝えることができたのはとても良かったと思います。このような機会を通して私たちの取り組みについて伝えていき少しでも環境について知ってもらえると嬉しいです。

【13】野鳥観察会と交流ワークショップ

期 日：2024年2月17日（土）10：30～14：30

場 所：球磨川河口及びさくら十字ホールやつしろ

講 師：高野茂樹先生、清野聡子先生、向田清峻氏

参加者：EYY メンバー3人・新宮高校16人・九大5人他5人

講師2人 合計31人

内 容：午前中：野鳥観察会・午後講演会と討論会

参加ユースの感想

・私と同じ高校生である福岡の高校の皆さんが、自分たちで課題を見つけて実験をしてしっかりと実践に移しているのも素直にすごいと思った。頑張っている同世代の人たちと交流できて良い刺激になったと思う。



野鳥観察会



講演会と討論会



【14】干潟保全プロジェクトのための予行演習：エコユースやつしろいきもの調査

期 日：2024年2月24日（土）14:00～16:30

場 所：八代市中北町球磨川河口干潟

参加者：EYY 10人・指導者6人スタッフ5人 合計21人



内 容：国が整備した塩生湿地で生物調査を行い、自然環境の保全や生態系の再生を目指していく活動の1回目。
また、地元のコミュニティや学校と連携し、地域全体で環境教育や自然観察の機会を提供していく予定。



★エコユース八代メンバーの感想

生き物調査では球磨川河口の野鳥や干潟にいる生き物についての観察やその生き物の特徴を知り、八代の良さに改めて気づくことができました。 **初めて見るいきものに感動**

【15】九州大学うみつなぎ 活動発表と討論参加

期日 2024年3月10日 13:00~17:00

会場 九州大学 椎木講堂 第2講義室 / Zoom ウェビナー

参加者 エコユースやつしろ（八代高校11人・スタッフ1人）合計12人

★エコユースやつしろの発表

活動紹介として木下奈津美、濱田祐実子、村田彩乃が、浜辺の大そうじ大会や不法投棄視察会、マイクロプラスチック検査、県外の高校生との交流干潟観察会などを発表した。



九州大学椎木講堂前で



エコユースやつしろメンバーの発表



感想：学生主体の環境保全団体maiPLAや高校における海洋生物や砂の調査活動は、非常に素晴らしい取り組みで、大学生の組織で活動をしていることを初めて知ったメンバーには驚きだったようだ。しかしながら、その中でも中学生が行う調査や発言が、エコユース八代メンバーに大いに刺激を与えた。中学生らの率直で真摯な発言は、大人たちにも負けないほどの内容であり、彼らの情熱と環境への関心を感じた。

総合討論：一部の講演と二部前半の自己紹介を聞いて、心に響く「キーワード」を画用紙に書いて掲げ、登壇者とフロアから発表する形で進行された。エコユースやつしろメンバーも11名の参加であったが、約9割の発言の場を提供していただき、自らの言葉で伝える事が出来た。

エコユースやつしろメンバーも2期生、3期生が各班を作りみんなで考え発表できた →

★エコユース八代メンバーの感想

・今回は色々な世代、地域の方の海に関する活動について沢山学ぶことが出来ました。中学生で積極的に行動を起こしている人も居たので感銘を受けました。同じ環境(海)問題についての活動をしている人と繋がることの大切さを感じました。

・今回のイベントで様々な方が取り組まれていることを知ることが出来てとても良い学びになりました。知ることや周りの人と繋がっていく事の大切さを学べてとても良い経験になったしとても楽しかったです！自分も考えてもっといろんな事に挑戦していきたいと思いました！

・全員が同じ目的で集うこと自体がなかなかないことだったので、貴重な体験でした。自分たちが住んでいるところでは出来ないような活動を行っている学校、団体の発表を聞いてとても刺激を受けより一層これからの活動を頑張っていこうという気持ちになりました。



【16】球磨川河口ユース交流いきもの調査とWS

期日 2024年3月24日（日）10:00 から 15:30：大雨で予定変更
（10:00 から講演会、13:00 からWS・終了後干潟見学）

場所 講演・ワークショップ：桜十字ホールやつしろ
球磨川河口いきもの観察会：八代市中北町

参加者：EEY 人 城東高校 人 講師4人 スタッフ
合計43人

講師 高野 茂樹氏：八代野鳥愛好会 代表
森 敬介氏：ひのくにベントス研究所 所長
増田 龍哉氏：NPO 法人海辺づくり研究会理事
向田 清峻氏：八代河川国道事務所流域治水課長
コーディネーター 松本悟：ウエットランドフォーラム



<内容> 司会 エコユースやつしろ

講演会・ワークショップ：さくら十字ホールやつしろ
講話1 国土交通省八代河川国道事務所（向田清峻課長）
講話2 ひのくにベントス研究所 所長（森 啓介氏）
講話3 八代野鳥愛好会 会長（高野茂樹氏）
意見討論会・ワークショップ

いきもの観察会：熊本県八代市中北町 球磨川河口干潟
指導者：森啓介氏・高野茂樹氏・増田龍哉氏・松本悟氏・向田清俊氏・丁畑佐代氏
閉会挨拶・今後の計画説明 NPO 法人海辺づくり研究会理事（増田龍哉氏）

ユースの感想

- ・自然環境とは学問と同じく環境・生息する生物、それらを捕食する上位生物・食物連鎖など複合的な要素を含んだ体系的なものであり、かつ人間が失った自然を取り戻すには、失った土地、自然を再現し、適切な管理を行いながら、時間をかけていくことしか取り戻すことはできないとわかった。
- ・干潟が植物や生物の魅力を変えて発見でき、再生へ向けた様々な取組があることを知り、さらに興味が深まった。



城東高校と八代メンバー



司会進行をするメンバー



城東高校と交流講演会とWS



小雨の中、干潟を見学

今後の計画

河道掘削に伴い発生した土砂を塩生湿地やエコトーンの再生のために活用し、環境保全に取り組む計画があり、河川協力団体や学識者と連携し、整備された湿地で環境学習や自然観察の場として活用する予定があるとのこと。そこで、2024年度から毎月、地元高校生をメインにして八代市民や県外の高校生と共に整備した塩生湿地で生物調査を行い、自然環境の保全や生態系の再生を目指していく。また、地元のコミュニティや学校と連携し、地域全体で環境教育や自然観察の機会を提供するもので、今回はその取りかかりの第1歩の企画。

【17】八代市長へ活動報告と干潟現状説明後、次年度から始める「干潟保全プロジェクト」に八代市の共同体制を依頼し快諾

期 日：2024年3月27日（水）

場 所：八代市市長室

参加者：EEY4人 スタッフ4人 合計8人

内 容：2023年度体験活動をまとめるにあたり、エコユースやつしろメンバーと作成した「活動記録小冊子」を贈呈した。また、贈呈の際には、生物多様性の干潟保全に対する気持ちと、マイクロプラスチック、不法投棄問題を改善するために計画しているエコトーン（国土交通省八代河川国道事務所の芳原再生地）での「球磨川河口干潟保全プロジェクト」を、八代市も共同体制で実施していくことを提案した。

エコユースやつしろメンバーの体験発表も成長が見える内容で、市長はじめ同席されている市役所の方々の拍手をいただいた。市長へ贈呈するメンバー→



市長へ説明と提言するメンバー



市長へ贈呈するメンバー→

【18】高校探求の時間で授業とその発表会招待と講評

① 期 日 2023年9月22日（金）14:00～16:30

場 所 八代高校理科室 参加者50人

内 容 八代海・干拓地の成り立ちと現状を当会顧問川口顧問に干拓地のできた歴史について模型を使い、また国の資料を基に講義いただいた。 →

② 期 日 2023年10月6日（金）15:30～16:30

場 所 八代高校理科室 参加者80人

内 容 九州大学生の先生の海洋ごみ問題と松浦の対話型講演会

③ 期 日 2024年1月19日（金）14:30～16:00

場 所 八代高校体育館 参加者約200人

内 容 探求の時間で取組んだパネルセッション → 当会が相談を受けた課題も6件あった。



【19】海外ユース YEW と干潟保全オンライン情報交換会

期日：5月17日（金）20:00～22:30

場所：各自宅

参加者：メンバー7人・通訳他6人・海外ユース5人

内 容：・EYY:1年間の体験活動の紹介 合計18人
・YEW:国連で提言した内容

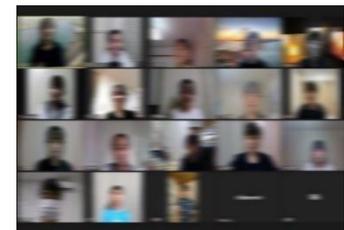
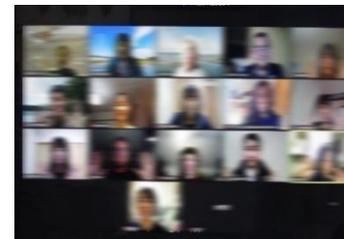
日本各地専門家オンライン講演会

5つの高校からなるエコユースやつしろ会員であるため、学校行事などで活動に参加できないメンバーに対し平日夜に専門家によるオンライン講演会を開催した。

期日：7月2日 19:30開始 参加者10人

講師：白水繁彦名誉教授

内容：顧問としての役割、大学受験対策など



【20】 その他体験活動 情報発信と県内外や日本各地で発表

◆地元ラジオ生放送に全員出演

エコユース八代メンバー**ほぼ全員**、年間を通じた体験活動の感想や、イベント紹介をラジオ生放送に出演した。体験したことを相手が見えない「声」で表現することの難しさを体験した。単なる参加では無く、振り返りをすることも出来て、改めて活動を学んだようだ。



地元ラジオ生放送に出演

◆様々な発表会

①全国アマモサミット

期日 : 10月20日～22日

登壇者 : 田村彩音 永井絆夏

発表内容 : エコユースやつしろ干潟保全活動について

場所 : 福岡市国際ターミナルホール



アマモサミットパネルセッション

②九州河川協力団体連絡会議 IRODORI チーム体験発表会

期日 : 9月3日 場所 : オンライン

登壇者 : 島田和花・米田彩乃

発表内容 : 「エコユースやつしろ体験活動紹介」

③SDGsの日(八代市主催)

期日 : 2023年1月21日

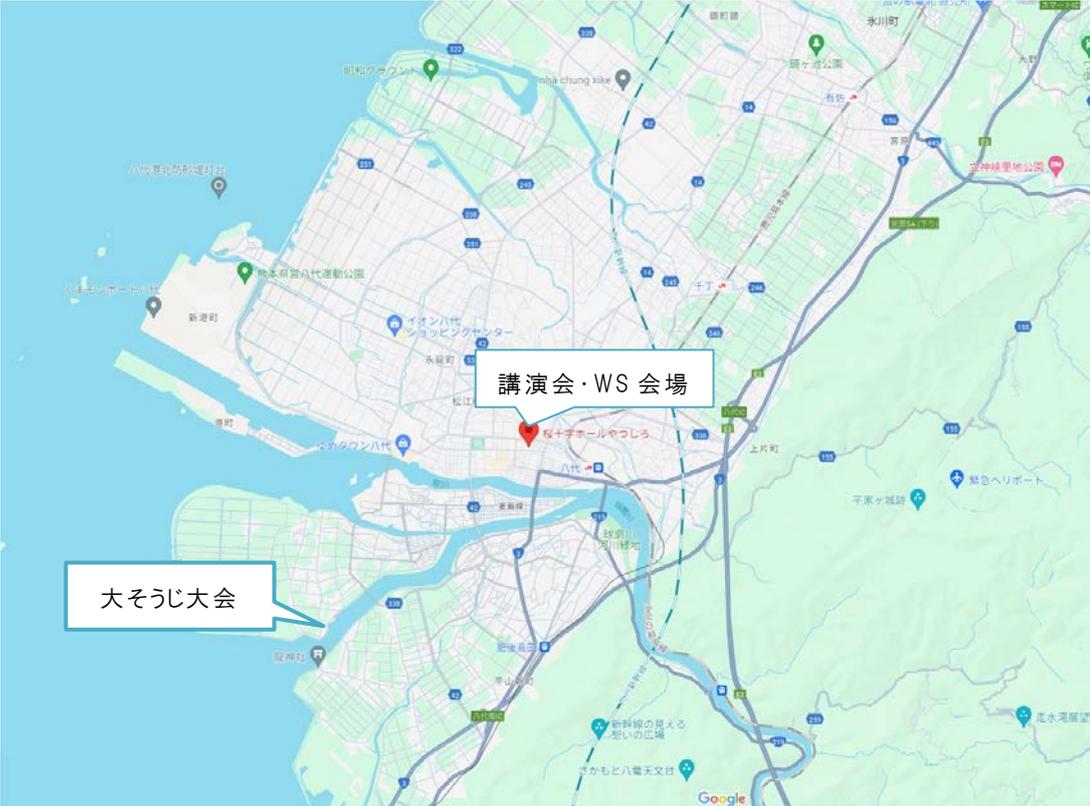
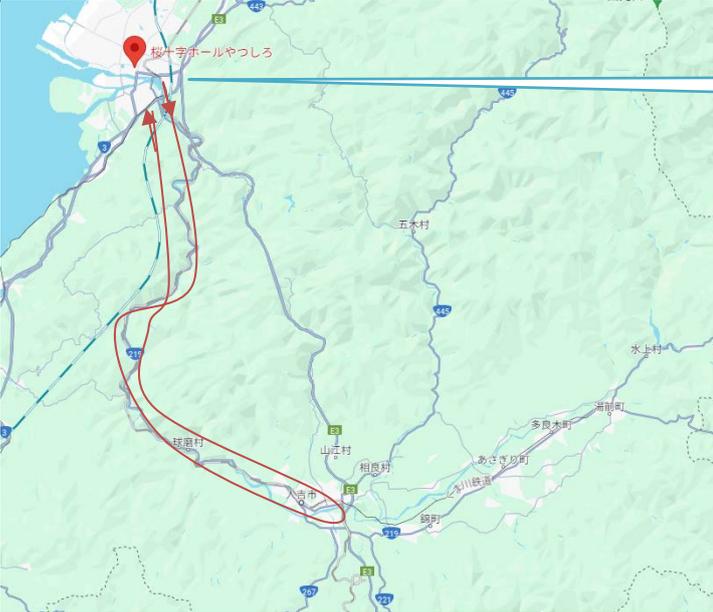
場所 : 桜十字ホール八代大ホール

登壇者 : 春野薫子・上淵 優

発表内容 : エコユース八代の体験学習会に参加してSDGsを考える

展示コーナー パネルセッション

参加者 : 森謙心 福山實朋 日隈志保 平田花澄 濱田 優雅 濱田雅 濱田佑実子
島田和花 高野真央 永井絆夏 瀬高望 前田純希 古閑山大輝

| 助成番号 | 助成事業名 | 所属・助成事業者氏名 |
|---------------|--|---------------------------------------|
| 2023-6111-001 | 故郷の宝「球磨川」を誇りに想い、次の世代へ引き継ぐ青少年育成活動 | 次世代のためにがんばる会 |
| 主な実施箇所 | 八代市役所 多目的ホール：高校生 SDGs サミット 2023 年度活動報告小冊子：HP で掲載・郵送（八代市通町 6-43） | |
| 助成事業の主な実施箇所 |  | |
| | <p style="text-align: center;">遠景</p> | <p style="text-align: center;">近景</p> |
| 河川基金ロゴ等表示状況写真 |  <div data-bbox="991 1518 1353 1753" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">水防災歴史見学会</p> <p>令和2年豪雨災害地である球磨川流域を見学：国土交通省八代河川国道事務所の方々のガイド</p> </div> | |